

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
<p>色内小</p> <p>6月12日</p>	<p>1 今までの統廃合ではどのような良い点、悪い点があったとらえているか。現状の学級編制は何人が標準で教員配置はどうなっているのか。</p>	<p>40人を上限と国の法律で決まっている。義務教育は高校と違い定員制ではないので、1クラス40人であったり30人であったりする。都道府県で別の基準を設ける場合があり、北海道では小1・2、中1で35人を上限とする研究事業があり、教員も多く配置される。ただし学年で1学級の場合は対象にならない。市内でもこの制度の適用で35人学級がいくつかある。</p> <p>過去の統廃合だが、H12に中学校の適正配置をした。石山中は西陵中と末広中に分かれ、西陵中は6クラスから9クラスになった。今は残念ですが6クラスになっている。中学校では6クラスでは先生は11人で9クラスになると5人増の16人。先生が少ないと主免許だけでの授業ができなくなるが、16人ではなんとか回せる線です。先生の異動の要素もあり絶対ではないが、可能性は広がる。各学年1クラスでは学級運営の相談や分担が難しい。大きいのが良く小さいのが悪いと言うわけではないが、一定の規模が必要です。小学校はH16、17に計画したが堺小以外は現状のままなので、また議論させていただく。</p>
	<p>2 保護者として子供の心が不安定になるのが気がかり。心のケア対策でスクールカウンセラーの配置や事前交流も分かるが、子供の心を落ち着かせるためには、保護者や地域、先生方の「大丈夫だよ」という声かけが大事だと思う。この計画を見る限り、保護者が不安を感じる場面が多く色内小の場合あきらめの気持ちになり子供たちに安心を与えられない。大人が子供にそのような言葉をかけてあげられるよう、もう少し具体的な計画を示してほしい。また、学校運営で一定の規模が必要ならばそれをもっと全面に出し、子供のために進めたいから協力してほしいという強力なリーダーシップが感じられなく物足りない。</p>	<p>教育委員会は子供の目線に立っているが、統廃合は大人の責任で話し合い、結果として子供に反映されるということをお互いに認識したい。先生が増えることだけが良いことというのは本旨ではない。先生の余力が子供たちと向き合うことにつながり、分担により学校運営のシステムがより強まる。9Pで「学校再編とより良い教育環境づくり」を列記した。こういう効果が出ると確信している。統合の事前の計画やあとの運営の段階で保護者からアイデアも聞かせてもらいたい。</p> <p>統廃合に子供が不安を持つということは現場にいたので理解する。小さな学校では生徒と先生の関係でうまくいく場面が多いが、中にはうまくいかない場合もある。その時に話し合える他の先生がいるためにはある程度の規模があった方がよい。小さなグループでは仲が悪くなると行くところがないが、ある程度の規模では居場所が見つかったり、クラス替えもそのような契機となる。学習指導でもティームティーチングによる細かな指導を加配で行えるが、規模が大きくなるとフリーの先生で学校独自でやれる。学芸会などの発表の場面で集団による感動もあり、小規模ではできないということではないが、一層効果がある。</p>
	<p>3 中学で免許外担任は不安だと感じる。子供も先生も少なく部活の種類がない。部活に参加している割合はどの位か。</p>	<p>体育系、文化系合わせて8割程度。いろいろな部活動に所属してもらえるよう取り組んでいるが顧問の数も増やすため一定規模が必要。現状は規模に応じた数だ。</p>

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
色内小	<p>4 説明は、色内小の話しのほかにも西陵中の統合も含まれているのか。</p>	<p>15年の再編期間の中でこの地区の中学校3校を2校にする。そういう再編計画の中で位置づけている。</p> <p>この地区の中学校は26年推計で西陵7クラス、松ヶ枝9クラス、松ヶ枝7クラスで小樽全体から見るとまだ一定の学級数はある。施設の状況は西陵は13クラスで建てた。菁園は10クラスで松ヶ枝は23クラス規模でS31の校舎がある。屋体は新しいが50年超えた校舎。松ヶ枝を菁園に入れるとしても菁園は10クラスしかない。建て替え、位置、規模など見ながらやらなければならないが、22年度以降議論する。中学校も対象だ。</p>
	<p>5 校舎の老朽化も見据えた再編なので大変難しいと思う。低学年が遠いところに通うのが心配だ。教員も下校時の安全に神経を使っている、統合で通学の安全などの配慮があると思うが、小学校3校にこだわらず4校という選択も考慮してほしい。</p>	<p>学校数と通学距離は裏表の関係で通学距離は長くなる。H11の段階では小2km、中3kmの範囲内という基準を設け、それを超えると「残す」という計画だったが、少子化のスピードが速く距離で統廃合の対象から外すことがなかなか出来なくなってきた。今回、全市を対象にそれぞれ地区ごとで何校位になるか出した。通学の安全対策の課題もある。13Pに来年から議論することを挙げたが、統合の組合せ、位置が決まれば通学区域、通学路が決まる。その中で安全対策としてどういうことができるのかという協議をする。危険度が増すからといって再編を止めるわけにはいかない。教委や先生方、地域、保護者の協力という形で組み立てたい。</p> <p>18Pに望ましい学校数を示した。この地区ではH20で1264人、H26が1266人と急激に減らないが、1学年1学級が多い。1クラス30人位ではどうか試算し学校の規模を300人から540人と幅を持たせた。通学区域は安全について考えなくてはならないので、1266人を3で割り422人の学校を3つ作ることはない。12から18学級の幅でという前提で、通学区域を決める作業の中で道路の区切り方など意見が出るわけなのでそういうことから人数の幅も出る。そういう中でも、100人いれば100人ともそういう再編は無理だということであれば別の話をしなければならぬ。ただ、今の段階で、「6校から3校までの幅の中でやる」となれば益々混乱するだけなので、ベースになる部分を教委でイメージとして出したが、意見を聞きながらやりたい。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
色内小	<p>6 保護者の思いと違う。今の段階で、保護者の悩みや不満をすべて解消する答えを用意していないと思うが、ある程度親が不安に思うことを打ち消すような材料で、ここまで考えているから大丈夫だと言ってくれないうちは計画に賛成と言えず、教委への信頼が持てない。長いスパンで考えるというが、この学校は雨漏りもすごく、前期に該当しているが老朽化の対応もそれまでの間に建物が崩れたらどうなるかと気になる。例えば色内に関するそのようなデータを揃えて(話をして)くれないと(議論素材として)物足りない。保護者、学校と教育委員会で協議するのは当然で、その前に不安に思うことに対し大丈夫だと言ってくれないと、賛成してくれないのではないか。</p>	<p>(意見の確認)今回は学校数、子供の数を考えた計画を出しているが、統合する学校名は出ていない。それは来年以降の議論でやる。現状で不安や課題に答えてくれないと信頼関係が取れないということだろうが、持っている不安、学校が古い、汚れているということに対して教委側がこうする、ああするということを求めているのか。</p>
	<p>7 (意見の確認に関して再発言)通学路では、校区がこうなるからこうしなければならぬという具体的なイメージが湧くように。例えば色内小ではどこかに分かれるとしたらということが一番の関心事なのにそれが聞けない。もっとはっきり答えてくれた方がイメージがはっきりしやすい。</p>	<p>通学区域が広がれば安全の問題が大きい。過去の例では、通学区域の段階の話し合いの時に安全上で危ない箇所の指摘を受けた。量徳小の時には、南小樽生協交差点の歩行者用信号がない、潮見台小の前の通りには歩道がないなどの指摘が出て、結果として、地元が動き信号がつく、歩行部分に白線を引く、真栄橋付近の高低差対策で手すりを設置ということになった。堺小の例では車の往来が多い一方通行にカーブミラー設置、手宮西小では近くの側溝部分舗装をした。結果的に統合案どおりにはならなかったが、具体的な要望についてはできる限りのことをした。適配とは関係ないが社会保険事務所の通りでは路側帯のカラー舗装もしている。具体的な通学区域が決まり、その点検作業で話しが出るだろう。今の段階は基本計画なので、事例紹介はしていないが、説明会の他の会場でも質問にそのような話はしている。書類だけを見てもらうような説明会で終わっていないことを理解してほしい。</p>
	<p>8 今後の協議では、問題はたくさんあるがこのような策でクリアするので大丈夫だという説明があれば気持ちが上向く。過去の事例を聞き安心したがそれが信頼関係につながる。</p>	<p>中学校の例ではスクールカウンセラーの活用もあり、同じ制度をやるかどうかは別にして生徒指導補助員も2年置いた。基本計画では何年後にどういう統合をすればいいと言えないので、約束できないものの、教委としてそういう方向性を持っている。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
色内小	<p>9 (意見)説明会で父親がいないが、自分が稚内南中の教員だった時、荒れていて学校回りに父親の協力で鎮めたことがあった。教育は教育委員会だけの問題ではなく、地域、父母の問題なので真剣に取り組みたい。3校を2校にするとあるが、その時点でふさわしい規模や教育の内容はあるので将来に渡り拘束する必要はない。15年なので結論を急がず学校、保護者、教委で話し合いより良い教育環境を作ることが必要。学校規模は小2クラス、中3クラスが適正としているがへき地の経験から全く正しいとも言えない。どんな小さな学校でも教育はやれる。ただ、良いところ、悪いところがあるのでそういうことを考える機会になるし、絶対ではなく相談して変えていくとのことなので安心している。もう1点だが、世界的にも40人学級は韓国と日本くらいでアメリカ、フランス、ドイツでは25人、30人だ。教委も国に要請する必要があるのではないか。教員定員を増やさなければ良い学校にならない。これからも懇談を開き皆が納得する内容にできれば良いと思う。</p>	
	<p>10 将来学校選択制を採用する予定はないのか。色内小ではブロックの端にあるので、具体的な案になればこっちに行きたいという親が出る可能性がある。ブロック内の学校に通うのを前提にして、その後学校選択制になるとおかしくなる。</p>	<p>未来永劫学校選択制をとらないかどうかは分からない。今の適正化計画の15年では学校選択制を視野に入れていない。小樽全域を一つにして何校だという出し方ではない。総合計画、山坂、生活環境、子供の動向、将来児童数で一定のブロックで考えることにしたが、どういう分け方でも(現校区が)またがる部分はある。ここ(色内小)や、入船小、若竹小でそういう部分はブロックをまたいだ議論、調整をする。小学校3校がどこになるかにより隣のブロックとの関係も変わるので、そういう校区調整や議論の場面は出てくるだろう。</p>
稲穂小	<p>1 20年度1264人、26年度1266人と少し増えている。この地区は6→3校で、稲穂小に流れてくるとどれくらいの大きさの学校となるのか。</p>	<p>統合の組合せにより変わる。稲穂小を例にして通学区域の調整なしとすると2つの学校を合わせた規模になる。21年度で合算すると色内小498人、花園小なら543人となる。(1学級の人数は)組合せにより規模が変わり望ましい規模が12クラスから18クラスなので、学年により異なる。</p>
	<p>2 稲穂小学校はあまり教室がない。この地区は人数が減らないのに学校数が減るといったことは1クラスの数が増えるのでは。35人以下の人数と言われるが、その辺はちゃんとなるのか。</p>	<p>組合せによりそういうこともあり、逆もある。学年により必ず均等にならず、統合の相手との現実的なシミュレーションをしなければ、クラスの数については言えないことだ。</p>
5月19日	<p>3 (意見)30人前後が望ましいと書いてあるので、稲穂だけギューギュー詰めにならないよう配慮して進めてほしい。子供が減り大変な状況も分かるので子供たちに負担がかからぬよう30人学級を目指して適正配置をお願いしたい。</p>	

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
<p>稲穂小</p>	<p>4 少子化と老朽化から見直しは必要だと認識している。ただ、この地区は児童数があまり減らないが学校数は半減。どこの学校を残すか見えてるか。稲穂は1クラス30人位だが、これ以上増やさないでほしいというのが率直な気持ち。人数が減らないのに学校が減ってしまう状況なので、低学年だけでも少人数学級を実現してほしい。近いとはいえ外(勤労女性センター)にある放課後学童クラブを校内に設置してほしい。</p>	<p>統合後の学級人数は、30人程度として学校数を算出したが、「在り方検討委員会」で理想的な人数として結論づけ、現在の小中の平均人数だ。理想的にはその中で収まるのがよいが、市全体で均等に割るなら平準化されるが、学校単位となると凸凹が出る。稲穂小でも学年で10数名の差がある。組合せるときに周りの学校も(その範囲で)収まるように考えたいが、必ずフラットでやるとは約束できない。通学区域の見直しでは親と話し合う前提は当然で、皆さんと合意をしながら学校再編を進める。</p> <p>1クラス40人はベストだとは思っていない。全国的に35人、30人学級の取組はあるが、小樽市が独自で先生を雇うことはできない中で、国や道の制度を活用して少人数学級、指導につなげたい。ティームティーチングも11人配置されている。道の事業で35人学級制度があるが2学級以上必要。他にも理由はあるが、一定の規模の学校を確保したい。教育委員会にも放課後児童クラブの校内設置要望はある。児童福祉法に基づく事業で、小樽は学校が多いが札幌では児童館というように色々な形態がある。勤労女性センターは堺、花園の子どもも来ていたが今は稲穂だけになった。ここ(稲穂小)は建て替えのときから12クラスなので余裕教室がない。校舎クラブハウスや屋体クラブハウスで、という要望もあるが、それぞれ目的に決められた活動に使われている。特別支援学級も空き教室がなく開設できなかった経過があり、今は3Fコンピュータ室を転用している。今後も特別支援の教室増設を視野に入れており、今後の規模のことも考えねばならない。(放課後児童クラブの校内設置には)色々な要件や整理することがある。ただ、他の学校にあるのにという(思いがある)ことは分かる。</p>
	<p>5 通学区域が広くなり、バス通学も必要になることも出てくると思うが、この地区では想定されるか。現状は何km以上の通学に適用されるのか。</p>	<p>このブロックの通学区域は周辺部より比較的狭く、隣の学校まで1km程度で、統合したとしても1kmないし2kmの範囲内。統合だから通学距離が延びる。子供にどの位の負担になるか、受容できる範囲かは親と話をしてまとめなければならないが、現在も通学でバスを利用している子供もいる。小学生は2kmで1km以上の乗車の場合、定期代助成している。銭函小、長端小、忍路小ではスクールバスを運行。このブロックでは統合の組み合わせで通学区域がどうなるか見ないと言えないが、現行の水準(制度)と同等以上のことはやらなければならないと思っている。</p> <p>現在、バス助成やスクールバス通学が一番多いのは銭小、次が長小。</p>

会 場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
稲穂小	6	<p>菁園中の人数が増えている。中は3校から2校なので、例えば松ヶ枝中がなくなるとほとんど菁園中に来るのではないかと思うが、菁園中一極集中となり、西陵中の人数が少ないという極端な状況も想定しているか。</p>	<p>再編後に、ブロック内の2校が同じような人数になるとは言えない。通学区域、利便を考えれば、(人数を)半分ずつにするため山を2つも越えるようなことにはならない。統合後の校舎の受け入れのことや(統合後の)学校を決めればまた10年くらいで変わるわけにはいかないわけで、改修することも考えれば数十年そこが学校となる。そうすると将来的にも学校立地としての条件としてどうかということもあり、(人数を)均等になる前提で(統合先を)考えることはない。</p>
	7	<p>チームティーチングはどこの学校でもやっていると思っていた。統廃合を機に、改修コストの削減という面もあるわけだから、チームティーチングを全校に広げていく配慮もお願いしたい。</p>	<p>チームティーチングは国や道で定員を増やしてくれるシステムで、教室で2人の先生が入る。(部長説明の)11校以外でも工夫しながら、算数や小さな学校では教頭が入るなどしている。11校は道教委で認め定数が増えた。去年までは4、5校だったが今年はたくさんの希望があった。音楽、体育など色々な教科で指導し、チームティーチングでは色々な方法がとられている。</p> <p>チームティーチング11校は小中合わせた実施。他の事業として、退職教員等外部人材活用事業があり、理数教育、外国語、全国学力・学習状況調査等を踏まえた学力向上を目指すという配置をしており、チームティーチングと合わせ小中27校ある。素案8Pにチームティーチングの充実拡大、少人数学級の実現に向けた働きかけとあるが、自分の経験でもチームティーチングは子供たちに有効と考えるので、今後も進める。</p>
花園小	1	<p>花園小は前期に該当するが、8年間のどの段階で統合校を絞り込み、どの段階で協議が動き出すのか、年度の青写真は。</p>	<p>13Pの関係だが、22年度からブロックごとの協議を始める。統合の組合せや時期を実施計画で位置付けるが、それを決めるため事前に保護者も含めた懇談をする。その協議の時間がどの位かかるかによる。特に中心部は隣接校が多くその調整に時間がかかることが想定されるので、8年間の前半か、中ごろか、後半かについては、このブロックでも花園小だけの話ではなく、山手地区もあるので調整しながら進める。</p>
	2	<p>6月26日</p> <p>堺小の閉校で、教員も2クラスになれば人間関係や活動が広がるので不安もありながら楽しみにしていた。実際は1クラスのみで、37、8人のクラスもできた。堺小の保護者も2クラスを期待していたと思う。今回、小規模校の解消という思いならそれを果たしてほしい。参加者から意見を求めるとのことだが、中心部の学校は単学級が多く厳しい状況なので、全部まとめてとか統合相手の希望など、どこまで意見を言えるのか分からない。教員としては2クラスで1クラス20人位が理想なのだが、1クラスのまま6年過ごすことは本当に窮屈で、今度の再編成ではきちんとやってほしい。まずは学年1クラスを解消してほしい。</p>	<p>学年1クラスでは先生方が努力して学校運営しているが、努力だけでは乗り越えられない部分はある。前回の小学校適配計画では統合は堺小だけで、閉校時57人が稲穂小と分かれたので2クラスにならなかった。小学校は6校あるが、計画では12クラスから18クラス位の規模にしたい。それ以上大きくなると屋体使用など問題が出るのでそういう想定。子供の数から3校になるが、来年度からどこが適地なのかの議論をする。皆さんすべての同意は難しいと思うが、全体的な理解が得られる議論の進め方をしたい。統合のパターンをできれば複数提示しながら意見を聞きたい。議論も1、2ヶ月で終わらないので計画では統合時期は記載していない。校舎老朽化や耐震の問題などの要素の中で15年の期間を設定しているが、前期では8年後に行うということではなく、一定程度の合意形成ができたところから順次進める考えだ。市内の小学校を12クラス規模で将来を見据えたい。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
花園小	<p>3 この計画は将来の話という感覚だが、前回の適正配置と全く違いこれからの小樽の教育のあり方だと思う。皆、自分の学校、それぞれの伝統を残したいという気持ちは一緒。しかし、実際に子供の数は少なく6年間を1学級で過ごすのは、学校生活が狭まり、人間関係の行き詰まりではクラス替えがあれば良いと思うので、本当に2学級になってほしい。ただ、現在は子供を通わせているから、この学校を他と統合しても良いという判断は難しい。お願いしたいことは、一つの学校を二つに分けないで同じ学校にすること。6ブロックに分かれているが、量徳小に近いところはブロックをまたがっても良いと思う。通学距離が長くなり安全面に不安が生じ、不審者が多いので、低学年は特に配慮してほしい。</p>	<p>堺小閉校の時に担当としてPTAの会合に出て保護者の不安や心配を聞いたが、一番は子供が安全に通えるかということだった。通学路が変わるのでその心配は強かった。教委でもやれることはやろうと、通学路のカーブミラー設置などをした。花園小のPTAの会合にも出向き校区のパトロールを強化してもらった。お互い気持ちよく統合できるよう事前の準備を子供たちの交流や親の話し合いの場を持つなどスムーズにできるよう教委も手伝う。これだけの大きな学校統合なので見落としのないようにやっていきたい。</p>
	<p>4 保護者の間で、花園小は一度堺小と統合しているから、もう統合はないと思っている人が相当いる気がする。</p>	<p>そう思っていることには気付かなかったが、現状ではどこの学校というのは決めていないし、来年度からパターンを示しながら決めていこうと思う。花園小と稲穂小での堺小の子供は当時2年生が5年生。ここ1、2年とは考えにくいだが、堺小の子供が花園小にいるうちにまだどこかに行くというのは避けなければという考え方を持っている。一度終わっているのが対象外とられているなら説明の仕方を考える。今回は小中の両方が対象なので、小学校で統合を経験した場合の中学校について考えなければならない。話の件は意識して来年度以降対応する。</p>
	<p>5 1学級の定員は40人だが、現状に合わない考え方だと思う。近年、学力や生徒指導面で多様化しており、素案では30人程度の学級を想定した配置となっているが、それでもかなり多いのではないかと。もっと弾力的に定員は20人前後がもっとも望ましいと考える。30～40人で統廃合を進める考え方は基本的に誤りではないかと思うので、小樽市も独自の方針を持ち進めてほしい。個別の指導もかなり徹底できると考える。</p>	<p>20人は現実とかなり遠い数字かなという気がするが、北海道の都市教育委員会では40人は多すぎるという共通認識で、35人学級制を要望している。小樽市が独自で雇うことは制度的には可能だが、現状では教員採用は不可能。北海道の研究事業で小1、2年、中1年で35人学級の制度があるが、1学年1学級では対象にならない。そのような制度を使うことも含め、一定程度の学校規模は作りたい。花園小も配置されているティームティーチングは、小樽で11人だが増員という状況ではなくこの枠を確保するのが精一杯。最近、退職教員等外部人材活用事業ができて花園小でも外国語で入っているように、道の制度を活用しながら、正式の教員でなくても学校のスタッフについてできることはしていく。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
花園小	<p>6</p> <p>13Pの学校再編の進め方だが、この地区は6校を3校にするとなると「新設統合」の条件に合う学校が何校あるかで決まってしまうのではないか。学級数を2学級以上にするとっても学年で色々なことが出て、人数から1校しかできないこともあると思う。この地区で具体的な条件がもっと出てこなければならない。これだけの条件で「設置委員会」に任せるとなれば地域の思いが通じない。例えば緑小は条件が難しいが新設学校を作るのか。そうではないと思う。6校である程度学校が決まってくる。学級数でも生徒が地域で動く数字が具体的に出てくるような気がする。これだけで「設置委員会」に任せるでは、(データや条件などが)もっと詳しくないと漠然と思っただけを話すことになる。隣接している地区との条件はどうなるのかということも含めてだが。</p>	<p>訂正するが、統合学校の位置、統合の時期を決めるのは「設置委員会」ではなく、その話し合いを22年度から入ること。「統合協議会」のことを指して話しがあったと思うが、協議会の実施計画で決めた後、統合までの準備期間内に話し合う場だ。統合の組合せなどは教委でプランをいくつか用意するのも一つのやり方だと思うので、それをたたき台にして話し合う場を設定し意見交換する。特定の代表者の話し合いではない。望ましい規模からみた学校数だが、このブロックは3校。300人から540人の学校規模の幅のA、B、C校としているが、組合せにより12～18学級の範囲で収まるような学校のイメージです。電卓を叩けば良いというものではなく、全校41校を対象にしたベースでの考え方なので、個別具体で個々の学校のことは22年度から意見を交わす中で合意形成を図っていく。説明会ではそういう手順を進めることも含めて理解を得たい。</p>
	<p>7</p> <p>説明を聞いて前とは全く違う計画だということは分かった。今までの説明会で他ではどのような話が出ていたか。</p>	<p>説明会の様子はホームページでも紹介していて17項目載せている。「統合の計画を早めに出して検討を進めた方が議論が早く進むのではないか」というのが一番多い。それは話しているように、まずベースになるものを固めて市民の共通理解に立って考えるという姿勢で、22年度から話をしようとして話している。特に周辺部のブロックでは通学の安全と通学距離の問題から、スクールバスは出すのかという質問が多い。小中で400人位がバス通学している現状で、路線バスは全額助成、小学校3校ではスクールバス運行しているので、一定の基準の中でそういう制度を行うと答えた。地域と学校の関係で、地域から学校がなくなることの寂しさ、学校は地域に見守られて子供が育つということから、地域から学校をなくすだけの観点で進まず十分考慮すべしとの意見もある。難しい問題だがブロックごとの協議の中で一番良いやり方を考えていこうと話している。通学区域が広がることから地域のサポートをどういうやり方が良いかという問いかけもある。これは引き続き地域の支援を得ながらやらなければならないと考えているので協力をお願いしている。再編はいつからかという話も、入学前の保護者も含めある。それについても22年度からの話し合いの結果によると同じように答えた。中学校では制服の話が出た。H14の中学校の統合の時には事前の申し合わせでそれぞれで構わないとなったことを紹介した。</p> <p>学校が変わることで色々な不安やいじめに会わないかという心配にどう対応するのかということもあった。事前交流や先生の統合校への異動などを考えると答えた。</p>

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
緑小	1 「学校統合による再編成」とは、具体的に言えば緑小の全校児童が最上小に通うということか。	H11から適正配置を進めているが、それは閉鎖する校区の半分をこちらへ、半分はこちらへという考え方でやってきた。今回再編と言っているのは、一つの地区だけでなく市内全域を見ていくということだ。中央・山手地区では6校の小学校を3校にという計画で、その進め方は、まず3校の位置はどこが良いかを考え、通学区域を変える。緑小の通学区域だけが変わるわけではない。小も中も進めて、その校区のリンクも考える必要から再編と使っている。緑小が対象になった場合、全部が最上小に行き、近隣の花園などに行くことはないのかという意味だと思うが、そのように考えずに、この区域で3校にした場合にどこに学校を置くのがベターかということを議論の出発点に置きたいので再編と言っている。
6月8日	2 12P⑧に「交友関係」とあるが、仲の良い友達が違う学校に行ったから、自分も同じ学校に行くことができるのか。	人数が少なくなると男女の比率が極端に偏る場合がある。再編を3年後に決めた場合、これから入学する子が3年後の統合先に行きたいということもあるので、特例で弾力性を持つ。また、在学している子供の場合、区域で比率が違う部分で弾力的に対応していく。それは、現実的に学校の再編をいつにするか、校区はどうするかという中で具体的にでてくる議論だ。
	3 緑小は築年数も経っていて耐震性の心配もある。前期でも、地域や保護者の理解、予算面などで作業が進まなかった場合は何年間かこの校舎を使うことになるが、その場合の耐震対応の考えは。	昨年から5校の耐震診断を始め、実施設計予算を計上した。耐震補強の流れを説明する。まず地震に対する強度が分かる耐震診断を行う。その結果Is値0.7以上が大丈夫という基準で、0.3未満では震度6強で倒壊の可能性が高い。5校は0.7以上でも0.3未満でもなかったが、耐震補強は必要となった。耐震診断の後は実施設計で、補強の工法を決める。そして耐震工事にかかる。ここの学校も優先度調査で早くやらなければ部類だが、もう一つの要件で、建て替えの時期がある。耐震補強では耐震性は確保するが、コンクリート強度を強くすることはできない。大規模改修もやっていないので築39年なのでここは改築と考える。この地区では松ヶ枝中が築50年で補強とはならない。小樽市には、耐震補強、改築の部分は大量にあるので、一定の順番をつけてやらなければならない。緑小は学校再編の議論と平行して進める。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
緑小	<p>4 中央・山手地区は前期だが、8年の中で一斉にやるのか。少しずつか。実施はいつごろ分かるのか。進め方はどのようになるか。</p>	<p>前期後期で区分しているが、小さな学校が多くあるところは一定程度早く議論しなければならない。基準では朝里地区と銭函地区の他は全部前期だ。直すところは直して年内に素案から計画にする。13P5で、22年度から何をやるのかを書いているが、4項目ある。どういう組合せか、新しい学校の位置、通学区域を決める。事前に統合校の間での子供や保護者の交流についてや、札幌の資生館小のような統合で全く新しい学校を作るという考えもある。このような議論は学校単位の場合や隣の何校かと一緒にやっていきたい。一定の考え方でこうしますということではなく、こういう考え方、そういう考え方というような案を示し、意見を聞きながらやっていく。A校をB校、C校に分けるということではなく、再編という形で考える。</p>
	<p>5 この地区で残る学校は大体見えていて緑小は多分なくなると思う。新しく建てると言っても予算がないから無理だろう。前期のどの時期に再編されるのかを保護者は一番心配している。緑小から稲穂小への指定校変更は多いと思うが、それを目の当たりにしているので、緑小がなくなるという保護者はかなり多い。教育委員会ですでに案はあると思う。豊倉地区のように陳情があれば残るのか。望ましい規模に満たない学校でも地域がそういう行動に出れば残るのは間違いだ。耐震5校は残る学校だと思う。漠然とした計画ではなく青写真を示すべき。</p>	<p>教育委員会である地区である学校を残そうという形のものはない。この地域で施設の状況から「もう見えている」との話だが、例で言えば、最上小も20年経っている。統合校の場所がどこが良いのかと考えたときに、新しい学校が良いという考えは持っていない。学校は40年、50年使うわけなので、この地区でこの場所が良いということになれば、この場所に建てようという議論になる。来年から具体的な議論になるが、それぞれの地区でどんどん進めましょとなれば、耐震補強や改築を1年で小樽市ができるかというそれは無理。一定程度の順番が必要。素案の最後に学校位置図があるが、中央・山手地区は小中9校。新たに学校となると2万㎡の土地が必要でその確保はできないが、9か所の学校敷地は持っているということ。その中でどこが一番良いのかという議論をしなければ、目先のことだけでは矛盾が出てくる。そういうことで計画を作っているのも、ブロックで将来的なことも含めて議論をさせてもらう。早くいつからかということは、議論するいくつかの要件があり、その中で合意ができたところからやっていく。学校がなくなるわけなので、反対意見もあると思うが、理解してもらい、協力ももらわなければならない。</p>
	<p>6 50年前の卒業生だが、今回の計画は子供の数、学校の位置の問題が基本であることは理解しているが、教育水準の問題もある。この学校の教育レベル、保護者の学校への関心度、伝統という部分がしっかりしている。統廃合の中で、より良い教育の中核の伝統がバラバラにされることになってはいけない。今まで育まれた教育レベルや教育への関わりの仕方をどう評価して考えるのか。</p>	<p>緑小は国語教育など伝統ある教育活動で高い評価がある。学年1学級の学校が7割もある中で、学年で担任が1人となり、先生が一生懸命やっても限界があるので、学校統合で学年の役割を分担し、指導者も教育力を高め、子供の学力を高める営みをしなければだめだ。緑小の先生がどこに行くにしてもプラス面の影響を与える存在であってほしいし、学年で協力しながら互いに切磋琢磨し高めてもらうことが学力向上につながる。中学校では免許外という問題があるが、学級増で先生が増えれば解消が図られる。それが学力や運動能力の向上につながる。先生の専門性をもっと生かせる学級編制、よき伝統を他の先生方に良い影響を与えるような適正配置を考えたい。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
緑小		<p>学校の伝統や校風は41校にそれぞれあり、子供や先生が変わってもその雰囲気は継承されるものだ。A校とB校のいいところを足して新しい校風をと言ってもそういうことでは作られないと思う。誤解をおそれず言うと、学校再編では新しい伝統の学校をつくるということ。私見ではあるがそういう議論です。</p>
	<p>7 (要望) 中学校に行くと(出身)小学校や幼稚園が分かる。緑小は管理職(になるような先生)が多く、先生を育成する場だと思う。子供も中学校に進んでも曲がることなく成績も上の方だろう。国語を中心に教育している学校は緑小以外にはほとんどないと思う。緑を学ぼうと公開研をやっており多くの先生が育つ場所だ。中学校に行くと、ある学校はどうしてこうなんだろうというのもたくさんある。色内から来た子は大変だなと感じており、毒されたくないと思う。新しい学校再編であれば、教育の伝統を受け継いでいけるような学校を新設してほしい。</p>	
	<p>8 昭和16年に入学したが、沖垣校長が国語に熱心で、それが今につながっている。伝統は簡単に絶やすものではない。子供の減少、後者の問題と一考を要するが、緑小の国語力は絶対になくしてはいけない。</p>	<p>それぞれの学校が努力し、優れているところを全部なくしていくわけではないが、再編で41校で全部伸ばしていくわけにもいかない。今まで培っているものを継承するという前提はもちろんある。</p>
	<p>9 地区の再編で、残る3校を決め、さらに校区の線引きを全く新しく考えるということか。</p>	<p>基本的にはないが、7P②の小中連携の点で、1つの中学校に2、3の小学校がまとまって行ける校区の編成ができないかと考えている。今の緑小は受け入れる中学校が3校で、1つのかたまりであれば連携しやすい。小中の校区を決める段階では②の視点も含め意見をもらいながら進める。</p>
	<p>10 素案は今年中に決まるということだが、その後説明会の予定は。</p>	<p>地区実施計画の議論になるが、来年度以降、学校での話し合いやいくつかの学校で集まったの場面など、これからもたくさんある。</p>
最上小 7月9日	<p>1 現在学校が建っている場所でも市の防災マップを見ると例えば西陵中学校のように警戒区域等に指定されているところがあるがどう認識しているか。また、既存の施設を生かした統合では位置的なバランスを欠いてしまわないか。</p>	<p>12P④で統合学校の場所は幾つかの条件を考えながら決めていくとしている。確かに防災上の警戒区域等にしていされている場所の学校はあるが、それだけでその場所が不適とはならず、様々な要素の中で検討しなければならない。また、既存の敷地以外に新しい土地を求めることは現実的に難しいことから既存の敷地の中から最も良い場所をきめていかなければならないと考える。</p> <p>西陵中学校の裏については、エリアで危険地域ということではあるが、地山(じやま)もコンクリートで固めていて、今の状態が危険だとはなっていない。エリア的に危険地域になっているということでご理解願いたい。</p>

会 場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
最上小	<p>2 基本的に学校の敷地を活用するというのは理解するが、学校敷地以外の市有地にもシガスーパー前など位置的に学校に適した土地はあると思うが、活用は考えていないのか。また、中学生が3kmという通学助成の距離要件について考慮してほしい。バス通学の場合の本数についてバス会社への働きかけをしてもらえるか。</p>	<p>市有地の活用について、例えば公園用地などは都市計画上の用途の変更などで難しいと聞いているが、具体の協議の時に調べて話す場面を持ちたい。また、バス助成の条件については現実的にどのような対応が可能かという部分で相談をしていかなければならないと思う。</p>
	<p>3 前回の適正配置計画は結果的に理解が得られなかったが、今回はどのように進めていくのか、前回はどうか改革されたのか説明してほしい。</p>	<p>前回は通学距離を小学校2km、中学校3kmを上限に考えたが、規模が小さくなくても通学距離だけで対象から外れてしまうことへの疑問が数多くあった。また、今回は小樽の少子化が前回より1段進んだことにより全市的に計画を策定して進めることとした。</p>
	<p>4 今問題になっている量徳小学校と病院建設の問題については、教育委員会として量徳小学校の跡地をどうすることが一番適当か、そして地域や関係者に対してどういように理解を深めようとしているのか。現状、病院問題は、一刻の猶予もならないような状況にあるため、市としても総力を挙げて問題の解決に当たらなければいけないと思うが、問題解決に向けて別の選択肢も持っているのか。</p>	<p>教育委員会として、病院のことについては話せる範囲でお答えしたい。まずこの計画自体はこの地区も他の地区もどこの学校を廃校にしてどこの学校に移すという計画ではない。量徳小学校も含めてこの学校はなくす、ここの学校は残すというような、この計画自体そういう計画ではないという前提でご理解をいただきたい。新聞で量徳小学校の説明会の様子が報道されていたが、説明会では前段に新聞の報道を受けて地域の方々からも、「どうなっているのか。」という質問があるだろうと予想されたので、病院と総務部を担当している者も出ての説明会になった。そこでは病院の方から現状について一定の説明をさせていただいているが、現状で小樽市はこの間進めてきた築港の場所から量徳小学校の場所に建設予定地を変えたということではなく、小樽市として決めたということはない。まずは、当該地である地域の方々はもちろん、色々関係者の方々のご意見を聞きながら、慎重に検討していくのが、現状の市のスタンスということでご理解をいただきたい。</p>
	<p>5 今後新設される学校に市営プールを併設する考えはないのか。</p>	<p>市営プールの建設については総合計画の中に位置付けられている。今後は教育委員会として建設へ向けての作業をしていくが、学校敷地の空いたところということも選択肢としてあると思うが、この計画では学校をどこにするかというのが優先されるべき本旨。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
入船小	1 低学年では通学距離が長くなると大変だと思うので、スクールバスなどについて考えるのか。	<p>統合で当然通学距離が長くなる。8P⑧で通学時のバス利用を記載したが、来年度から地区ごとに協議する考えだ。現状でも通学時にバスを利用して小2km以上、中3km以上の場合定期代を助成している。</p> <p>定期代の助成は主に中学生で、小学校ではスクールバス運行、委託バス運行をしている。今後、理解が得られたら、距離が長くなれば徒歩では安全上無理だと考えるので、中は路線バス、小はスクールバスという制度になる。</p>
	6月25日	2 耐震優先度から入船小はなくなると思うのだが、最終的にどこどこが統合してどこはなくなるとするのは今の時点で決まっているのか。
	3 夜の時間帯ということもあるだろうが、来ている人数がこれだけということはお任せしますという人が大半だと思う。町会としても入船小がなくなれば寂しく思うので、緑小と一緒にしたとすると、両校を廃止し、現在の緑小の土地に「小樽第1小学校」というように名前を変えてやってほしいがそのような考えはあるか。スクールバスだが、以前の説明会では考えていないと言っていたが、今回は考えるようなので、通学路は十分配慮してほしい。最上小への近道はすごいところを通るのでその辺も配慮していただきたい。	<p>この会場は20名位だが、10名を切る会場もあり、30名を超える会場もある。保護者が中心になったり、地域の方が多く参加したりと雰囲気は違う。町会回覧や町会長やPTA会長の集まりにも行き説明会の宣伝をしたり、幼稚園、保育所の家庭にもチラシを配るなどした結果がこの人数なので、参加できない理由は色々あるだろうが、去年も懇談会をして、今回も広報に載せたのである程度市民には浸透しており、「やろうとしていることは分かった」という方もいるだろうと思う。秋にはパブリックコメントをやるが、引き続き関心を持ってもらうようにしたい。地域から学校がなくなるのは寂しい限りだということは分かる。繰り返しになるが、子供にとって一番良い教育環境はどうなのかという話し合いをするのは少しでも早い方が良い。その際、ある学校がなくなり、ある学校が残ったという構造は作りたくない。学校名には色々な思いが込められていて歴史を背負っているようなものなので重要なこと。13P6で統合協議会の設置とあるが、その協議の議題に校名の話も出さるだろう。他の町では校名や校歌を公募している場合もあり、どうしたら良いか話し合っていきたい。</p> <p>説明会に来た方が少ないから教委に任せたとすることは思っていない。素案は基本的な考え方で統合の組合せは書いていないので、足が遠のいているという気がする。説明会の意見は取り入れるところは取り入れて、22年度から具体的なことについてブロックで話をしていきたい。出てこなかった方の意見を聞く機会がないということではない。</p>

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
入船小	4	東山中などでも同じようなことが話し合われたのか。以前と同じであれば、吸収されたり、耐震基準で統合されることになる。その考え方はその後に出た話なのか。	12P4学校再編の進め方①では、統合の対象校は一旦廃止した上で新設校として設置するという形をとっていくことを書いている。全部ではないが、以前の中学校の時や堺小とは違う観点である。
	5	入船小は災害時の地域の避難場所に指定されている。築年数からあまり安全ではないが、そのまま残しておくのか。なくなれば、近くには松ヶ枝会館が指定されているが2、300人しか入れない。	市内41校すべてが避難場所に指定されているので、再編で学校として使われなくなるので心配だという話がある。教委として学校再編とセットで立派な避難場所を作るという約束はできないが、大規模な再編成なので重要な課題だと思っているし、担当部局もそういう認識だと聞いている。ブロックごとの協議では一つのテーマです。
西陵中 5月26日	1	子供の心の負担軽減としてスクールカウンセラーを活用したケアをあげているが、保護者としては物足りなさを感じる。また、今までの教育委員会の(案件についての)パブリックコメント結果を見たが、意見も少なく保護者の声がどれだけ反映されるか不安です。	心のケアについてだが、道費のスクールカウンセラー5名を全中学校と小1校を対象に、市費1名を教育委員会に置いて配置している。ケアについては校内の相談体制の研修プログラムを現在も組んでいるが、統合に際しては充実させると共にスクールカウンセラーの集中的派遣など全力で対応する。 H13、14の中学校統合や堺小の経験がある。準備期間の中で保護者間の交流などを行い、先生の異動も対応する。前回は相談員を置いた。教員を独自でというのは難しいができるだけの手立て、経験を含めやっていく。今までの適正配置は隣接校に編入する統合でやったが、今回は全市見直して大きな再編となることから、編入という形ではなく校名も新しい学校をつくるということも含めて来年以降議論していきたい。パブリックコメントの大事なところは、市側の考えを示すやり取りの部分。説明会で出された意見・要望等も含め手直しを加え、パブリックコメントを行う。
	2	(意見) 新学習指導要領で時間数が増える中で十分な事前交流をされるか心配。子供の環境が大きく変わるわけだから事前交流、スクールカウンセラーなどの対応を具体的に示してくれると安心できる。パブリックコメントは「ここは変えてほしい」という気持ちで意見を出すので、すべて反映させてとは思わないが、少しでも(意見が反映され原案が)変われば私達も何か協力できるんだという気持ちになるので(そのような意図を汲んで出される意見を)考えてほしい。	事前交流について、授業をやっている時間の交流もあるが、年間の学校行事と一緒になど心のケアも考えてやることとなる。今の段階ではなく、来年以降指導室から学校に具体的に示すので、(新学習指導要領で時間をとられるため十分なことができないという懸念の向きについて)時数的には考えなくてもよいと思う。 パブリックコメントについては十分に意見として承る。

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
西陵中	3	今回は素案なので、来年度からはっきりした計画が出て、来年度の計画を基にやっていくということでしょうか。	今回は素案で、7月まで説明会を行い、秋にパブリックコメントをやる。要望があれば説明会は何回でもやる。21年中に基本計画をまとめる。22年度からの具体的議論として想定することとして地区での条件の違いがある。中央・山手や南小樽地区の学校間距離は1km程度で、小学校は1クラスが多い。塩谷・長橋地区では隣まで5kmあり、規模では長橋小、幸小は一定の規模だが忍路小は極めて小さい。このような地域の条件の中、6ブロックでどう配置するかという議論を来年度からする。この中央・山手地区では中2校小3校という計画で、どこにするのがよいかを議論する。9校が5校になるので4つ空く。一例だが小学校でなくなったところに中学校を建てるということも含め色々議論したい。例えば、松ヶ枝中は築50年。学校は1回建てると50年くらい使う。緑小は築40年。ここ(西陵中)や稲穂小、青園中は比較的新しいが、中学校3校を2校にする、学校をどこに置く、どうやって分けるということではなく地区全体の学校敷地があり、統合の結果どこへどうしようという意味で長いスパンにしている。ここだけではなくこの地区でもそういうイメージで、30年、40年先の小樽の学校という視点で議論したい。
	4	今までの、小中学校の今の(小と中の枠の中でだけ統合校の場所を決める)範囲ではなく、全部混ぜた考えか。来年スタートではなく、来年はより深くブロックごとに話をしていくという受け止めでよいか。	計画は15年というスパン。15年後からということではなく、Aブロックは22年から話を始め、ここからやろう、Bブロックは児童数の状況を見て決めようという意味で15年だと理解していただきたい。
	5	以前の適正配置で報道が先になくなる学校を公表(記事と)したが、そうすると保護者の不安が増すので、そのようなことがないように願う。皆さんは具体的な進め方を把握できていないと感じる。ブロックごとの素案を作り保護者に配ると説明会に来ると思う。	具体的な話(が出る)まで(説明会に来て)聞いても仕方ないと思う方もいるのでは。41校全域の見直しが必要と考えるので、その基本的な考え方の理解をもらうため昨年の地域懇談会、今回の説明会を開催している。ブロックごとの学校数を出したが、来年のブロック協議ではこういう考え方はどうかという議論素材を示しながら議論していきたい。
青園中	1	例えば、青園中は何年か建物として存在させなければならないのか。	統廃合では補助金の返還の緩和措置がある。ただ起債もあるので、取り壊しができないということではないが、返さなければならない。
	2	6月10日 そういう前提で、お金がかかるので残すという位置づけの学校はないのか。	国の基準では補助金は60年持たせるのが原則なので、その前に壊せば一部分戻すことになるが、要件で公共施設に使うなどの場合は必要なく免除になる。どこを残すかという基準として12P④にあるが、統合後の通学区域のバランス、校地、校舎の状況、通学上の安全を勘案するが、その際に交通の利便性や除雪体制などの学校立地の条件としてよい環境かという観点も入れて、協議したい。ここでは、補助金の返還が多いか少ないかだけで残すような判断基準は入れていない。

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
菁園中	<p>3 前後期に分けているが、文部科学省の基準以下で進めていくのか。複式はどうするのか。校名を変えるつもりはあるのか。期間が長すぎると思うが、あまり長くかけるのもどうか。期間を短縮した方が地域の理解を深められると思うが。</p>	<p>文科省は小中とも標準学級を12学級以上としている。教委は中学校を12学級以上にすると学校数が少なくなるので9学級以上と考える。この下限の9学級は先生が16人配置され、主免許で授業が運営できる配置となる。前後期の区分を小12、中9の基準とすると、ほとんどの学校が小さな学校になってしまうので検討を急がなければならない地区の基準を決め、小は1学年1クラスか複式になっている6学級以下、中は1学年1クラスがすでに発生している5学級以下の学校が多いところを前期とした。校名の部分は、12P①従来の通学区域を隣接する学校に編入する統合だけでなく、A校とB校を両方1回なくし、全く新しいC校を作る新設統合方式の考え方がある。札幌の4校統合して作った資生館小のやり方だ。今回の計画では41校を21校にと示しているが、当然、吸収統合ではなく地区で新しい学校という議論もしていかなければならない。15年間は長すぎるという意見だが、他会場でもあった。6ブロックで学校数を示しているが、組合せ、位置、通学区域を議論していくが、統合を決めたとしてもそれに向けた事前の準備にどの位の期間が必要かという議論を22年度からやり順次進める。15年後に、8年後にやるというのではなく、課題をクリアしたところから順次やるもので、計画全部が一律に何年から全部スタートとは現実にならないので15年の期間を置いている。</p>
	<p>4 この地区は中学校3校を2校、南小樽地区は2校を1校だが、真ん中辺りに新しい学校を建てようという計画にはならないか。</p>	<p>新しい学校という考え方は、全く違うところに土地を取得して新しく建てる考えではない。最低2万㎡の土地を取得してというのは難しいことと、中央・山手地区に小学校6校、中学校3校の計9校あるが、小3校、中2校の計5校が計画なので、4校の空き地ができるので、交通の便や地域との関係で良い場所ならそこに建てるということもある。新しい土地の取得はないが手持ちの敷地を活用した新しい学校というやり方だ。</p>
	<p>5 菁園中は小学校よりグラウンドが狭い。今の部活動の現状は、潮見台中ではサッカー部の3年生が2人だと聞く。いずれ小樽では中体連の大会は個人スポーツしかできなくなると心配する。学校再編でスポーツ活動が十分できる施設づくりをしなければ子育てはできないようになる。運動会ができれば良いではなく、サッカーや野球など子供が地域スポーツの活動ができる場がないので、学校を使用する現状。施設を充実していければと思う。</p>	<p>意見として聞くがそう思う。菁園中のグラウンドは狭い。誤解しないで聞いてほしいが、仮に花園小がなくなると菁園中のグラウンドは広がる。花園小の子供もここに来ることもあり、小学校の位置としてどこが良いのかという議論もしていかなければならない。12P④の関連だが、小学校の子供も皆中学校に行くわけだから、小学校のときだけ、中学校だけではなく、小中を含めての学校の在り方について、条件はあるが議論する。22年度からは菁園中単体や隣の小や中のPTAの保護者や役員の方と一緒に議論する場面もあるだろう。</p>
	<p>6 再編により通学区域が変わるが、近い方を選ぶことはできるか。吹奏楽部が菁園中にしかないと思えば、やりたい子供が行きたいというのはだめなのか。</p>	<p>指定校変更は距離的に近い場合は申請により認めている。10年くらい前はよほどの事情がない限り認められなかったが、品川区の学校選択制などの動きの中でそういう気持ちは保障していこうと緩和された。変更の内規の要件では部活動も認めている。小も中も段々小さくなって部活動もやり切れない。子供の数も少ないし、先生の数も少なく、運動部だけではなく文化部も含めた問題だ。それも一定の規模の学校に再編する理由に挙げているが、通学距離、部活動の要素では指定校変更を認めている。菁園中は指定校変更が多く、部活のことなどから送り出しに比べ受け入れが多い。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
菁園中	<p>①どこでも自分の子供が通う学校が対象になれば賛成しないだろうが、話し合いで花園小をなくすとすれば、去年の懇談会で話も出たし素案でも統合を繰り返さないとあるが、天秤にかけるとどちらに重きをおくのか。②説明会で10人に満たない所もあるが意見を集約したと言えるか。次の段階でどのように持っていくのか。③菁園中は中央・山手ブロックでない量徳小から30数名来ている。松ヶ枝、天神、緑の上の方を天狗山ブロックのような区分けの仕方はどうか。④以前の適配で住吉中学校は最後は3年生だけ残ったが、東山中、石山中も同じだったのか。そういう方法をとるのか。小が中になるという話があったが、小だけ再編、中だけ再編となるのか。⑤新設校は建物も新しくなるのか。札幌資生館小は建物も校歌、校章も全部新しくなり、コミュニティ施設も一緒にして新しい学校を建てた。既存の施設を使ってとあるので説明願います。</p>	<p>⑤全部を新しい名前の学校にする考えではない。4PにあるようにS30年代の校舎も7校ある。手宮小、色内小、量徳小、松ヶ枝中、北山中は多くがかなり古くなっていて、新しい統合校の敷地になれば耐震補強では無理なので、建て替えとなる。50年経った学校は耐力度調査をやり建て替えを考え、S50年代でまだ使えるところの統合校は耐震化しなければならない。そういう意味では新設校は全部建替えるということではない。④3中学校の統合では1年間3年生だけになった。相当保護者とやり取りしたが、受験を控え環境を変えたくないというのが理由だった。学校運営としては決して良い形ではなかったと思う。小学校では一緒に思っているが、そういうことも相談していく。③6ブロックに分けて議論の骨格を作るが、ブロックで残る所によりブロックを超えた議論が必要。一律に全部を対象にした議論のスタートにはならないが、ブロックの議論を出発点にして、どこに学校を置き、隣との関係はどうなるのかという順番になる。①②地域と学校について説明会では周辺部の方々から学校がなくなると寂しいという意見を相当もっているが、否定はしない。こういう形で説明会をしているが、理解をしてほしいという部分と理解をもらいながらやっていかなければという部分があり、今の段階で反対だからやめる、賛成だからやるという議論だけにはならない。意見は集約し、ホームページでも紹介している。</p>
8	<p>クリアしたところから進めたいとのことだが、ブロックで中学校に通う場合のことや、小学校でもクリアしたところは交流会を開く、もう少し時間をかけたい場合はまだ1年残るといような細かいところが保護者は一番気になる。</p>	<p>現実的な問題だと思うが、今までの計画と違い全市でやることから、今回はまず時期も含めて地区段階の議論をしなければならない。中心部は学校が近接しているのでそのような議論は結構出ると思う。</p>
9	<p>適正配置は大変で、市が財政的に苦しいことも理解している。できることはしたいという人もいる。皆が納得するのは難しいが、説明会にも足を運んでもらえるような工夫を。ホームページ更新を早く。</p>	<p>説明会を42か所で行っているが、PTAや町会で説明してくれと声をかけてもらえればありがたい。</p>
10	<p>地区ブロックだが、中央・山手と南小樽を分けずにひとまとめにして一遍にやればだれも文句は言わない。中心部は朝里や高島・手宮地区と違う。まとめた案を出せばスムーズに行く。小学校では一つにまとめた方が再編しやすい。今のブロック割りは縦割りだが、横から上と下に分けると交通の便からよいか色々な考え方がある。</p>	<p>説明会で色々な意見をもらいどう進めるか決めるが、学校配置の考え方の提案として受け取る。</p>
11	<p>6月7日の日曜日の説明会はどれ位来たのか。</p>	<p>地域の方が3人。他に市会議員の参加がありました。</p>

会場	参加者からの質問・意見	教育委員会からの説明
菁園中	<p>12 ①新聞で量徳小のことが出たが。②小中一貫教育の考え方を持っているか③説明会は事務方で対応できるが、ある程度具体的に言った時は教育長や市長に同席してもらえるのか。</p>	<p>③今日は幸小での説明会もあり、教育長はそちらに行っている。学校配置も含め教育問題は教委の所管事項。予算をつけるのは市長の仕事だが、教育の在り方については教委の所管なので、基本的に学校適正配置のことで市長が説明することは構造上ない。市長は皆さんとの懇談は別のチャンネルをもっていて、この説明会に出てくるというのはない。②小中一貫の議論は6・3制の見直しと関わり、文科省の研究事業で取り組まれている。小中併置校は学校が小さくなったが1校しかないので統合できない場合と同じ建物でという場合のもの。他の会場で併置は可能かという質問があったが、不可能ではない。ただ、この計画のベースには一定程度の学校規模があるので現状の考えでは良いとはしていないが、来年度以降のその地域の中で議論していこうとしている。①(経緯の説明割愛) 教委の立場で説明できるのはそこまでだが、仮に(病院建設の検討になるとすれば)その話になれば教委も市長部局も病院を含め、関係する地域の方々とは話をしなければならないと思う。</p>
	<p>13 今の説明では市長が病院をここ(量徳小)に建てると言えば建てることになり、量徳小をなくすということになるのか。</p>	<p>そうはならない。もしそういう場面になれば、病院も市長部局も教委も含めて地域との話し合いをしなければならない。</p>
	<p>14 統廃合計画の前にそれが判断されたら、量徳小は病院の建て替えのための廃校の話が進むこともあるのか。</p>	<p>そこまでは私の立場では何とも言えません。</p>
	<p>15 小中学校の統廃合は子供の教育上のものだ。小樽の病院数は人口に見合って十分であるから負債が増えているのではないか。新しくなれば良いのかと思う市民もいる。10年位前に病院のプロジェクチームで市立病院的なものは今後必要ないと判断した資料がある。</p>	<p>そのことでやり取りはできない。新聞等に量徳小のことが載っていたネットワーク会議の報告を市長が「重く受け止めている」と言ったところまで整理させてもらうが、説明会でこういう意見が出たことは病院に伝えます。</p>
	<p>16 前回の計画がなくなったのは量徳小の保護者が反対したからじゃない。マスコミを使うと周りで見方、受け取り方が違う。前回の説明会でも同じことを言ったが、寝耳に水と言ったのもめた。この時期にこの話となると仕組まれているのかと思う。</p>	<p>言うことは分かるので病院に伝えるが、違う場面ではまたしっかり話し合いの必要がある。今日はそれ以上のコメントはできません。</p>
	<p>17 (意見)何らかの形で市民の意見は聞いてくれるということだろう。市長の単独ではなく。</p>	

中央・山手ブロック

会場	参加者からの質問・意見		教育委員会からの説明
<p>松ヶ枝中 7月10日</p>	1	<p>これまでの適正配置で堺小学校と中学校3校が閉校になったが、それぞれの学校がどこの通学区域になったのか。</p>	<p>堺小を、花園小と稲穂小に通学区域の編入しました。 中学校は石山中を末広中と西陵中に、東山中を菁園中と松ヶ枝中に、住吉中を菁園中と潮見台中の通学区域に編入しました。</p>
	2	<p>何回も統廃合を繰り返さないようにするということだが、今回は今出てきた中学校には一回廃校になった子供たちが通っているの、その子供たちの学校は残るといことか。</p>	<p>12P②は学校そのものという意味ではなく、移った子供がいる間にまた統合することは避けていかなければならないと考える。前期8年間で実際には小と中の時期がずれることもあり考慮する。</p>
	3	<p>松ヶ枝中学校出身だが、小樽の学校で初めての鉄筋コンクリート校舎で歴史的な建物に指定してほしいくらいだ。学級数に比べて、校舎が広すぎるということならば校舎を半分にして新しい体育館を生かしてもらいたい。</p>	<p>今回この計画の全体については、どこの学校をなくすとどこの学校を受入校にするとか、そういう作りにはなっていない。どこが統合校の場所として適当なのかという議論は通学区域のバランス、校地、校舎の状況、校舎の老朽度、交通の利便性、冬の雪ということも含めて、来年度にする。</p>